

原編集長が語る17年のフィンテックのトレンド 手軽に投資や貯蓄ができるサービスが増える

16年はApple Payが話題になり、スマホを使った決済が手軽になりましたが、17年は一歩進んで「投資や貯蓄のハードルを下げる」タイプのフィンテックが熱くなると思います。例えば「One Tap BUY」というスマホに特化した証券サービス。その魅力は、取扱銘柄すべてが最小取引単位1万円で購入できることです。投資先は米国の株式市場になるのですが、Amazon、Apple、Facebook、Nikeなどの株を購入できるのです。少しくわくわくしますよね。

このインタビューの時点ではサービスを開始していませんが、株式投資型クラウドファンディングサービス「FUNDINNO（ファンディーノ）」も注目しておきたいフィンテックです。これは資金を調達したい中小企業やベンチャー企業と、未来の有力企業に投資したい個人投資家をマッチングするサービス。個人投資家にとっては、

所得税減税を受けられる「エンジェル税制」が適用される点も魅力。ただし、こちらは投資した企業が倒産するなどのリスクがありますので、一人が同じ会社に出資できる金額は1年間で50万円以下と規制されています。

最後に紹介するのが自動貯金サービス「finbe」というフィンテック。あらかじめ設定したルールで自動的にお金をためていけるサービスです。例えば、デビットカードなどと連携させ、買い物金額の端数を貯金に回すといった設定ができます。「500円単位」と設定しておくと、420円の買い物をした場合に、おつりの80円が専用口座に自動的に振り替えられ、貯蓄に回ります。

多種多様な金融サービスが次々と出てくる17年。リスクを理解したうえで、フィンテック投資を始めてみてはいかがでしょうか。（談）

「One Tap BUY」のデモ画面。米国の有名な企業に1万円から投資できる



日経FinTech
編集長・原隆

日経トレンドィ 2017年2月号 P.95

米国個別株の積み立ても! 新サービスが続々

米ドルの自動積み立てができるサービスは今春にかけてさらに増える。じぶん銀行が100円からの積み立てを始め、One Tap BUYは米国の個別株を1000円から積み立てられるようになる見込み。また、じぶん銀行は17年内にAIによる自動積立外貨預金を開始予定。



①じぶん銀行が開発中の自動積み立て②ワンタップバイは米国個別株を1000円から買える。今後積み立ても追加

日経トレンドィ 2017年2月号 P.41